

ふ語はいふ也、さながらは、そのまゝに同じ、又ひねもすがらの略也、夜もすがらに對したる詞也、仁明天皇寶算の賀歌に、茜刺須終日須加良爾と見えたり、ひねは日也、ねは助語、又ねも反の也、夜をよはといふがごとし、すがらは物の末になりて、盡んとするをいふ詞也、ひねもすといふも同じ、めも反も也。

〔萬葉集九雜歌〕詠霍公鳥一首并短歌

鶯之生卵乃中爾、霍公鳥獨所生而

橘之花乎居令散終日雖喧聞吉略

〔續日本後紀十九〕嘉祥二年三月庚辰興福寺大法師等爲奉賀天皇寶算滿于四十略、中長歌詞曰○

略 茜刺須終日須加良爾、鳥玉乃狹夜通、時日經、思時略

〔類聚名義抄三〕昏音、暮音、昏暮音、同夕音

〔伊呂波字類抄天象〕晡且後晡日、夕月也、暮音、昏亦作、穉、暝又云、冥、晏已上也

〔段注說文解字七上〕晡、暮也、日暮者、日且冥也、日且冥而月且生矣、故字从月、半見、皆會意象形也、从月、半見、切、古

音在
五部

〔書言字考節用集二候〕暮、晚也、日暮者、日出、一上爲旦、一地入、一

〔物類稱呼五〕夕を東國の詞によんべと云、今案に、遊仙屈ニ宿ヨベ、ヨンベと訓ず、

〔東雅一文〕暮クレ略○中、夕ユフベといふは、ユフは夜といふ詞の轉也、へは語助也、

〔八雲御抄三上〕夕、ゆふやみ、ゆふけ、すみぞめ、ゆふな、夕け、ゆふまぐれ、くものはた

て、夕日、とよはた雲、同、たそがれ、物むとむべし、夕され、夕ぐれ、うらひこ、の、名也、萬八

にねての夕べのともよめり、むばたまのゆふべとよめり、すみぞめと云、これくらきこ、ろ

也、